

第19回 有峰俳句の会

(令和5年7月30日)

桐山遊歩道、冷夕谷遊歩道南口・キャンプ場

【講師吟】

緑吸はん総身の透き通るまで

中坪 達哉

【特選】

老鶯や日差しこぼるるけもの道

成重 佐伊子

山涼し車前草ふめば道しづむ

岡田 康裕

花さびた次第に高くなりにつけり

石黒 順子

山滴るあがりこに見るたつきかな

道端 齊

ねずこには熊の爪痕夏盛ん

平井 弘美

走り根を踏みしめ下りて夏木立

渡辺 美和子

桐谷や山毛櫨の緑とせせらぎと

内田 邦夫

ミズナラにもたれゆられて夏の坂

中川 正次

日に五度色変はる岳夏の湖

今井 久雄

老鶯や太きネズコを抱へ立つ

下田 敏生

南無阿弥陀仏有峰の山緑濃し

はやみず よしこ

百年ぶりに咲くも地味笹の花

土肥 大介

夏山に山菜見つけ採りもして

澤田 道雄

風呂上がり薬師岳にかかる夏の月

大森 秀一郎

人絶えて砥谷の往路夏椿

霜鳥 智也

漆黒の森蛍火を鮮やかに

田島 敏美

夏盛り裾をまくりて足浸す

青山 和浩

天の川映る湖面に手を合わす

加藤 一雄

夏の湖見つめて一句詠まんとす

田中 正博

爽やかにラジオ体操山仰ぎ

いっぽ

炎天下今紺青に有峰湖

友加里

